

古墳時代の始まりを物語る住居と土器

古墳時代前期の住居跡は、長方形あるいは方形の竪穴式住居です。その年代は、4世紀前半と考えられ、この時代、荒川の低地を望む川田谷の台地には遺跡が増え、新たな時代の到来を物語っています。



D調査区3号住居跡

住居跡から発見された土器は、日々の暮らしを支えた道具です。複数出土した台付甕だいつきがめは煮炊きで煤け、高坏は神への供物を捧げるために使われたことでしょう。



D調査区3号住居跡 出土土器



土器出土状況

若宮I遺跡は、昭和57年に「若宮台遺跡」の名で発掘調査が行われ、古墳時代前期の住居跡が発見されました。発見された土器の中にワイングラスのような椀形高坏があります。この高坏は、この時代に強まった東海地方西部の影響を示しています。



若宮台遺跡 出土土器



椀形高坏